「活用」の力を育てる評価問題

小２　算数
「かさ」

評価問題例

算数　かさ

年　　組〔　　〕

1 〔 〕にあてまはる数字をかきましょう。

㋐ 1ℓ＝〔 〕dℓ＝〔 〕mℓ　㋑ 1dℓ＝〔 〕mℓ

2 〔 〕にあてはまる数字をかきましょう。

(1) ㋐ 4dℓ＝〔　　〕mℓ　㋑ 2ℓ＝〔　　〕mℓ

(2) ㋐と㋑の答えから考えましょう。

㋒ 2ℓ4dℓ ＝〔　　〕mℓ

3 〔 〕にあてはまるかさの単位をかきましょう。

㋐ペットボトル…2〔 〕　㋑水そう…6〔 〕

㋒学校の牛にゅうパック…200〔 〕

㋓なべ…4〔 〕　㋔コップ…4〔 〕

4　ジュースがペットボトルに1ℓ5dℓ、コップに5dℓ入っています。

合わせるとどれだけになりますか。

また、ちがいはどれだけですか。

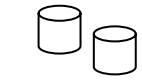
しき　　こたえ

しき　　こたえ

5　みらいさんとつばささんが、もってきたじょうろに入るかさくらべをします。

どのようにくらべたらいいか、いくつかの方ほうを考えましょう。

みらいさん



つばささん

相手を意識してよく分かるように図や文章でかいて説明させる。

児童自身が、学びのめあてを意識し、次時に目標をもつための自己評価欄である。

学習のふり返り

① かさのたんいがわかるようになった。（ ◎ ○ △ ）

② みのまわりのもので、かさがかいてあるものを見つけられるようになった。（ ◎ ○ △ ）

③ 自分の考えがせつ明できるようになった。（ ◎ ○ △ ）

④ かさの学習をふりかえって、はじめてわかったことや学習してよかったことをかいてください。

評価問題のポイント

問題１と２は、ℓ と dℓ、mℓ の関係が理解できたか確かめる問題である。学習活動を振り返ることを通して相互関係を思い出させる。また、今まで学習したことを活用して解く問題を設定している。

問題３においては、身に付けた量感をもとにして、色々な容器の容積を表現するのに適切な単位を選ぶ問題である。日常生活でも表記されているものが多いものを選んだ。量感を養うとともに、身近なものにもかさが表記されていることに気付かせたい。

問題４は、単位に注意しながら、かさの加減計算ができるか確かめる問題である。長さと同様同じ単位の数値に目を向けて考えられるようにする。

問題５では、かさを比べる時は、直接比較をすることや共通の単位や普遍性の単位が必要であることを考えさせたい。答えは、「①どちらかのコップでくらべる。②水を移し替える。③dℓ ますや ℓ ますで比べる。」などがある。また、文章の記述は、相手を意識して説明する表現力を評価するためのものである。常に相手を意識して分かりやすい説明ができるようにさせる。

さらに、自分の学びを振り返り、次の時間のめあてを一人一人の児童がもつことができるように自己評価欄も設けた。今回は、◎○△の簡単なチェックの方法を示したが、各自のノートに文章化させることも一つの方法である。

HOME　単元の流れへ　授業展開例へ